

# No. 1438

## 大地震に備えて

— 東京・荒川 —

防災の日の9月1日、東京、神奈川など1都9県で大地震発生との想定で総合防災訓練が行われました。東京のメイン会場となった荒川河川敷ではまず付近住民の避難訓練からスタート。警視庁レスキュー隊による事故車両からの救出救護訓練。車のなかに閉じ込められた“被災者”たちが次々に救出されます。このほか、高層建築物や倒壊家屋からの救出訓練などが本番さながらに行われました。これは今回の訓練に初めて登場した樹木による延焼阻止効果実験。家屋と家屋の間にある木が延焼をくい止めているのがわかります。地震が発生したらまず火を消すことを日頃から心がけておきたいものです。

## 教科書問題の行方

中国侵略を「侵入」「進出」としたり、都合の悪い事実は、できるだけ簡単に改めたりした検定教科書。中国や韓国からの批判があいつぎ教科書問題は深刻な外交問題に発展した。文部省は昭和23年から教科書の検定制度を発足。教科書の「中正」を守るためという名目であったが、この「中正」が中国、韓国などアジア諸国からクレームがついた。

だが検定制度の堅持を主張する文部省は記述修正にこだわり事態はこじれた。文部省が記述修正はできないと固い姿勢をとりつづける背景に家永教科書訴訟がある。今、記述修正に文部省が応じれば、自ら検定制度を否定することにもなり、現在東京高裁で審理中の裁判に大きい影響を与える。

解決の糸口さえつかめぬ政府は、首相自身の政治判断で決着を図った。——記者会見——だが中国、韓国は依然日本政府の見解に納得していない。1977年9月、日本と中国は不幸な時代にピリオドを打った。今年には正常化10周年を迎え、鈴木首相自身すぐにも中国を訪問する。この中国をはじめ、東南アジア各国が日本の教科書にこだわり続けるのは何故か？それは、日本がいつか来た道を再び歩きはじめるのではないか、という強い警戒心があるからではなかろうか、